SONY®

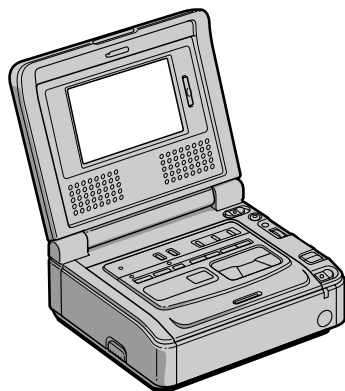
3-064-176-**04** (1)

デジタル ビデオカセット レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Digital 8

GV-D800

必ずお読みください

お使いになる前に

本機はDigital8（デジタルエイト）方式のデジタルビデオカセットレコーダーです。
Hi8/マークのついたHi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）テープを使用します。録画方式はDigital8（デジタルエイト）方式になります。また、本機は、他機で撮影したHi8（ハイエイト）Hi8方式、またはスタンダード8ミリ方式の画像を再生することができます。よりよいつなぎ撮りのために、これらの方式とDigital8（デジタルエイト）方式で記録した映像を同一テープに混在させないことをお勧めします。
また、本取扱説明書に記載された再生機能には、Digital8（デジタルエイト）方式で撮影された映像にのみ有効なものがありますので、ご了承ください。

ためし録画

必ず事前にためし録画をし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカセットレコーダーやテープなどの不具合により録画がされなかった場合、録画内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

液晶画面ついて

液晶画面は非常に精密度の高い技術で作られています。黒い点が現れたり、赤や青、緑の点が消えないことがありますが、故障ではありません（99.99%またはそれ以上の割合で画面上は正常に動きます）。これらの点は、テープに記録されません。
液晶画面を太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

本書内の写真について

液晶画面の映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

目次

準備

基本

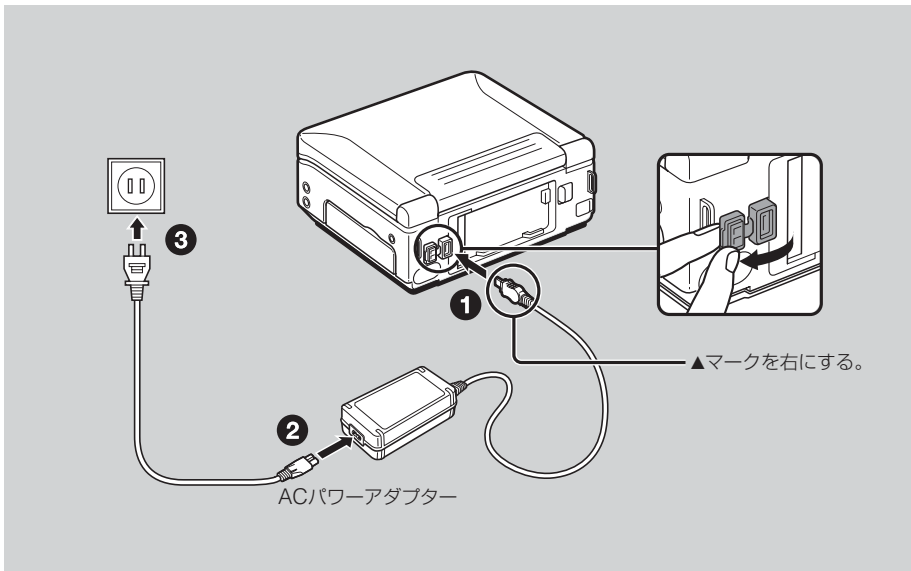
応用

編集

お買い上げ時の設定を変える

その他

検索する

準備1 電源を準備する

ご注意

- ACパワーアダプターは、お手近なコンセントを使用してください。本機をご使用中に不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 電源コードを引っぱらないようにしてください。プラグがコンセントから抜けることがあります。
- 本機をACパワーアダプターに近づけすぎないでください。画面にノイズが出ることがあります。

屋外では

バッテリーを使います。（52ページ）

自動車の電源では

別売りのACアダプター／チャージャーAC-VQ850とカーバッテリーコードDCC-VQ1をお使いください。

❶ ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。

DC IN端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークを右にしてつなぐ。

❷ 電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。

❸ 電源コードをコンセントにつなぐ。

準備2 カセットを入れる

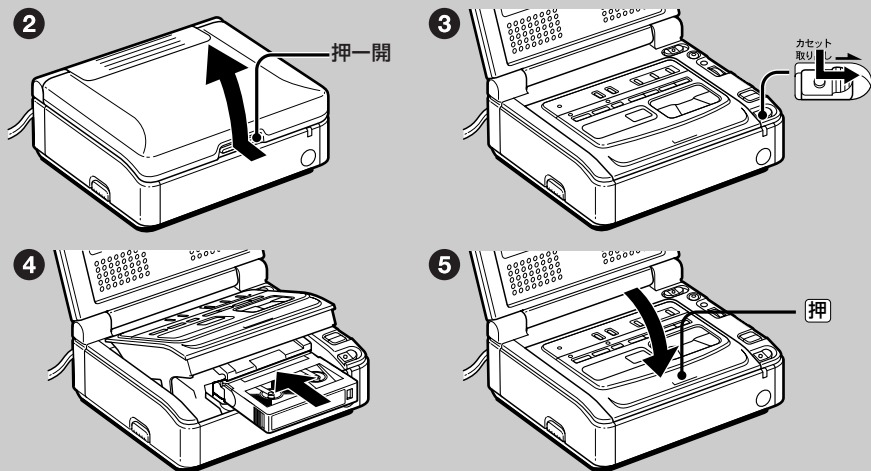
準備

Hi8/8マークのついたHi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）テープをおすすめします。

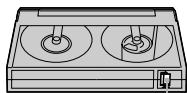
❷ 押一開

❸ カセット取り出し

❹

❺ 押

ご注意

- カセットぶたが開いているときに、カセット入れに指を入れたり中を触ったりしないでください。故障の原因になります。
- 本機での録画方式はデジタルエイト方式です。録画時間はSPモードでHi8/スタンダード8ミリテープに表示してある時間の半分、LPモードで3/4になります。
- スタンダード8ミリテープを使用して本機で録画した場合、本機以外（GV-D800を含む）での再生時にモザイク状のノイズが現れることがあります。

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミを横にずらし「赤」にします。

❶ 電源を準備する。（4ページ）

❷ 押一開ボタンを押しながら、液晶パネルを開く。

❸ カセット取出しつまみの青のボタンを押しながら、矢印の方向へずらす。

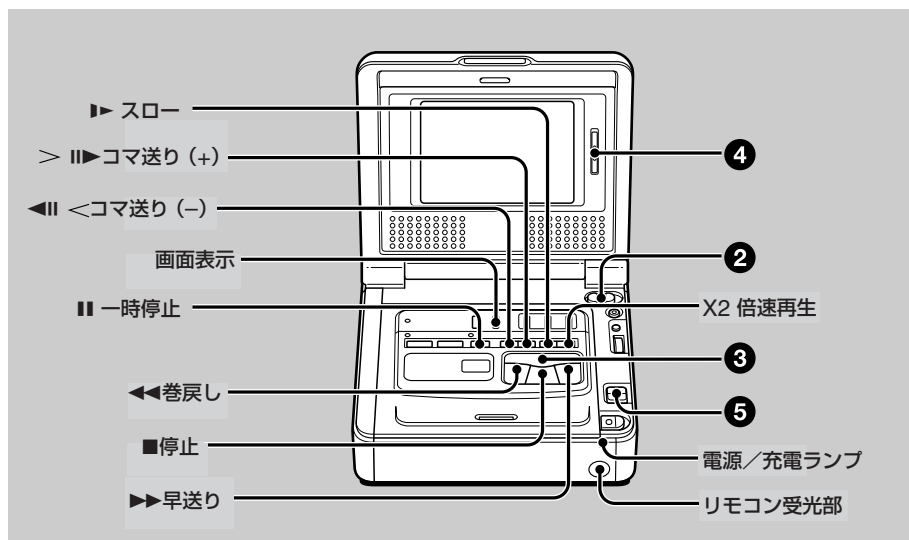
カセット入れが自動的に開く。

❹ テープ窓を上側にして入れる。

❺ 押マークを押して、カセットぶたを閉める。

カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順❹で取り出す。

再生する

ご注意

外国製のビデオソフトの中には、カラーテレビ方式が異なるため本機では再生できないものがあります。

画面表示を出すには

画面表示ボタンを押します。消すときは、もう一度押します。

---

❶ **電源を準備して、再生したいカセットを入れる。**

---

❷ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「入」にする。**

本体前面の電源／充電ランプ（緑）が点灯する。

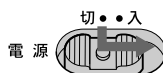
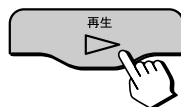
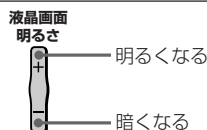
---

❸ **▷再生ボタンを押す。**

再生が始まる。

---

❹ **明るさを調節する。**

---

❺ **音量を調節する。**

再生を止める

■停止ボタンを押す。

ご注意

変速再生中は
- Digital8方式以外で記録したテープで変速再生するとノイズが出ます。
- 音声は出ません。
- 前の映像がモザイク状に残ることがあります。（Digital8方式再生時）
- 再生方式の自動判別を行いません。

一時停止（静止画）について
- 3分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度▷再生ボタンを押します。
- 前の画像が残ることがあります。

Digital8方式のスロー再生について
本機にはスロー画像をなめらかに再生する機能があります。ただし DV入力／出力端子から出力される信号にはこの機能は働きません。

逆方向再生について
画面の上下や中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

ヘッドホンで音を聞くには
ヘッドホン（別売り）を（ヘッドホン）端子につなぎます。音量＋／－ボタンで音量調節ができます。ヘッドホンをつなぐとスピーカーから音は出ません。

いろいろな再生

静止画を見る
［再生中］に❚❚一時停止ボタンを押す。一時停止ランプ（オレンジ）が点灯する。
▷再生ボタンまたは❚❚一時停止ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

早送りする
［停止中］に▶▶早送りボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す
［停止中］に◀◀巻戻しボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する
［再生中］に◀❚❚ ＜ボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り／巻き戻しする（ピクチャーサーチ）
［再生中］に▶▶早送り／◀◀巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り／巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）
［早送り中］または［巻き戻し中］に▶▶早送り／◀◀巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

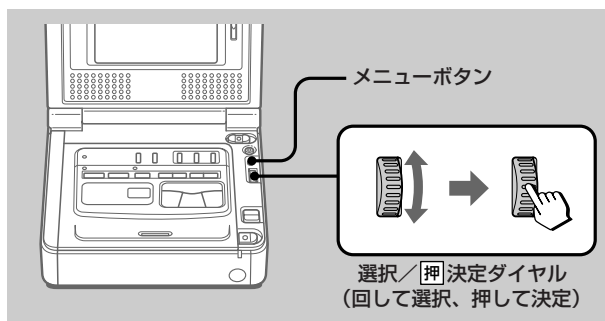
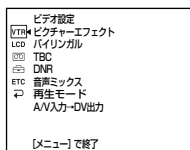
スロー画を見る
［再生中］に❚▶スローボタンを押す。
逆方向にスロー再生するときは、◀❚❚ ＜ボタンを押してから❚▶スローボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

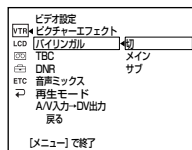
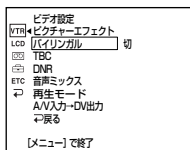
2倍速で見る（倍速再生）
［再生中］にX2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、◀❚❚ ＜ボタンを押してからX2ボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

コマ送りで見る
［再生一時停止中］に＞ ❚❚▶コマ送り（+）ボタンを押す。
逆方向にコマ送りするときは、◀❚❚ ＜コマ送り（–）ボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

次のページへつづく

ステレオ放送や、二重音声放送を録画したテープを再生する

二重音声放送を記録したテープを再生するときは、メニューの「バイリンガル」を設定して、音声を選んでください。

❶ **メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して「VTR」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「バイリンガル」を選び、押して決定する。**

4 **選択／押決定ダイヤルを回し、音声を選んで、押して決定する。**

音声について詳しくは55ページをご覧ください。

5 **メニューボタンを押してメニュー画面を消す。**

基本

ご注意

電源スイッチやカセットの取り出しなどはリモコンで操作できません。

リモコンで操作する

他のソニー製品に付属のリモコンで本機を操作できます。

メニューの「リモコン」で、お使いになるリモコンのリモコンコードを合わせてください。（49ページ）

リモコンコード	ソニー製品
VTR1	ベータマックスビデオカセットレコーダー
VTR2	8mmビデオカメラレコーダー デジタルビデオカメラレコーダー 8mmビデオカセットレコーダー
VTR3	VHSビデオカセットレコーダー
VTR4	デジタルビデオカセットレコーダー デジタルビデオカメラレコーダー
VTR5、VTR6	デジタルビデオカセットレコーダー

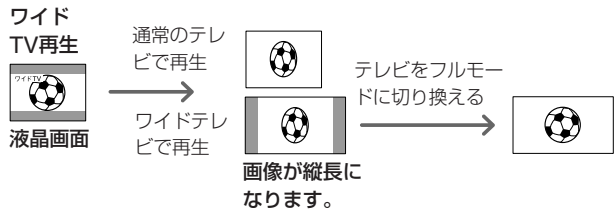
次のページへつづく

テレビの接続について
下記の接続のとき、ワイドTVモードで記録した画像を再生すると、画像は自動的にフルモードに切り換わります。
- ビデオIDシステム（ID-1/ID-2）方式対応のテレビと接続したとき。
- テレビのS（S1）映像入力端子に接続したとき。

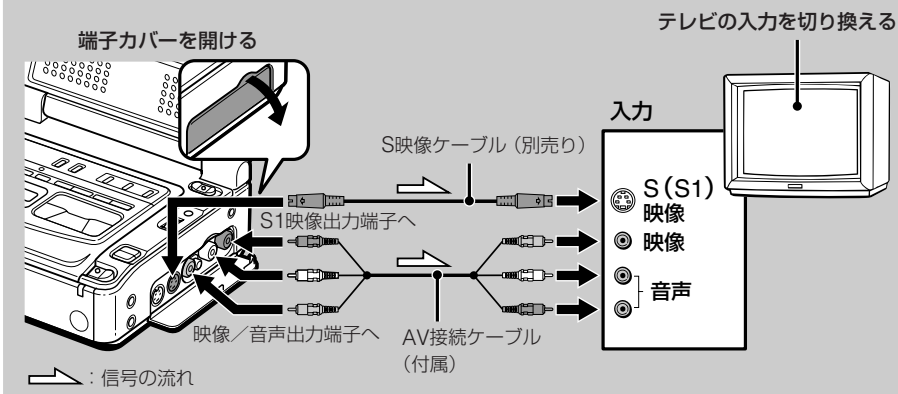
ID-2方式とは
ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

録画について
ワイドTV信号を本機で録画する場合は、本機で自動判別して、ワイドTV録画します。

ワイドTV再生・記録

ソニーのデジタルビデオカメラでワイド撮影したテープは本機でワイド再生することができます。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

テレビで見る

本機をS映像ケーブルやAV接続ケーブルでテレビにつなぐと、ビデオの再生をテレビ画面でたのしめます。接続ケーブルのプラグを本機やテレビの同色の端子につなぎます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。

別売りのS映像ケーブルを使うと

再生画像がより鮮明になります。テレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色い端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像出力端子とテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぐ。（本機側も赤いプラグは接続不要です。）

音声はモノラルです。

映像／音声入力端子のないテレビにつなぐとき

別売りのRFUアダプター（NTSC方式）でつなぐ。

テレビとRFUアダプターの取扱説明書をご覧ください。音声はモノラルです。

次のページへつづく

SUPER LASER AVLINK
別売りのAVコードレスIRレシーバーIFT-R20との組み合わせで最大距離が従来比*約60%アップ、またノイズレベル約40%減を実現しています。
* LASER AVLINK搭載ビデオカメラとIFT-R10との組み合わせ時

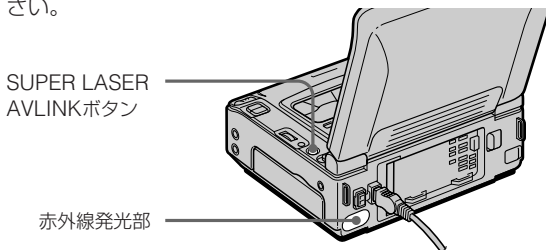
ソニー製のテレビの場合は
- 電源について
本機のメニューで「オートTVオン」を「入」に設定して、テレビの主電源を入れておくと、下記の2つの方法で自動的にテレビの電源を入れられます。
ー赤外線発光部をテレビのリモコン受光部に向けて、SUPER LASER AVLINKボタンを押す。
ーSUPER LASER AVLINKボタンを点灯させて、▷再生ボタンを押す。
- 入力について
本機のメニューで「オートTVオン」を「入」に設定し、「TV入力切りかえ」をIRレシーバーをつないだテレビの入力端子（ビデオ1/2/3）と同じに設定すると、テレビの入力も自動的に切り換わります。（テレビによっては、切り換わるときに一瞬画像や音声がとぎれることがあります。）
- 機種によっては、操作できないことがあります。

本機の電源スイッチを「切」にすると
自動的に解除されます。

SUPER LASER AVLINKを使うと
バッテリーの使用時間が短くなりますので、使わないときはSUPER LASER AVLINKを解除しておいてください。

SUPER LASER AVLINKはソニー（株）の商標です。

ケーブルを使わずに見る ーSUPER LASER AVLINK

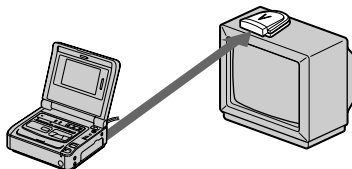
別売りのAVコードレスIRレシーバーをテレビにつないでおくと、ケーブルを接続しなくても本機で再生した画像をテレビで見られます。
詳しくはAVコードレスIRレシーバーの取扱説明書をご覧ください。

1 テレビにIRレシーバーをつなぎ、IRレシーバーの電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。

3 本機の電源を準備する。（4ページ）

4 SUPER LASER AVLINKボタンを押す。
ボタンのランプ（赤）が点灯する。

5 本機の▷再生ボタンを押す。
再生が始まる。

6 本機とIRレシーバーの向きを合わせる。
再生中の画像がきれいにテレビに写るようにする。

SUPER LASER AVLINKを解除する

SUPER LASER AVLINKボタンを押して、ボタンのランプを消す。

ビデオやテレビから録画する

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を録画機として使い、他のビデオの画像やテレビ番組を録画·編集できます。

端子カバーを開ける

録画側

受信/再生側

S映像ケーブル
（別売り）

出力

テレビ

S1映像入力端子へ

S（S1）
映像

映像

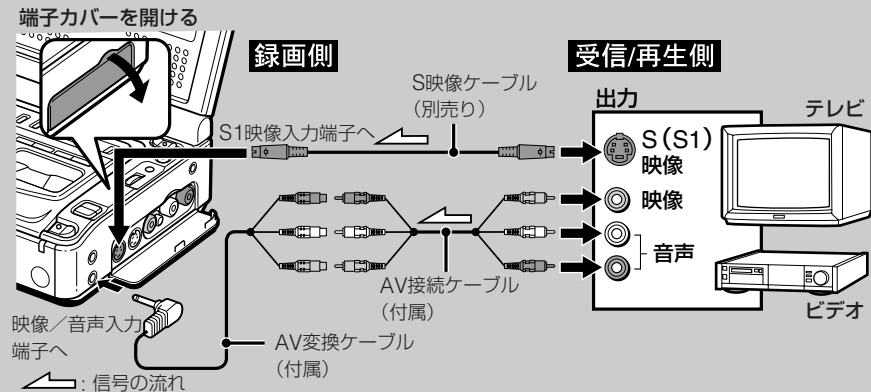
音声

AV接続ケーブル
（付属）

ビデオ

映像／音声入力
端子へ

AV変換ケーブル
（付属）

: 信号の流れ

ご注意

- よりよいつなぎ撮りのために、Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録した画像と、Digital8方式で記録した画像をひとつのテープに混在させないことをおすすめします。
- 再生側のビデオで早送りやスロー再生などを行うと、本機で録画中の画像が乱れることがあります。テープを通常速度で再生してください。

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ(モノラル)の場合
AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグを音声出力へつなぎます。（赤いプラグはどちらにもつながないでください。）音声はモノラルです。

別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより鮮明になります。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオ、またはテレビのS(S1)映像端子を接続することをおすすめします。

1 カセットを準備する。

本　機：録画したいカセットを入れる。
再生機：ビデオから録画するときは、録画ずみのカセットを入れる。

2 本機の電源スイッチを「入」にする。

3 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

4 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。

ビデオやテレビの画像が画面に出る。

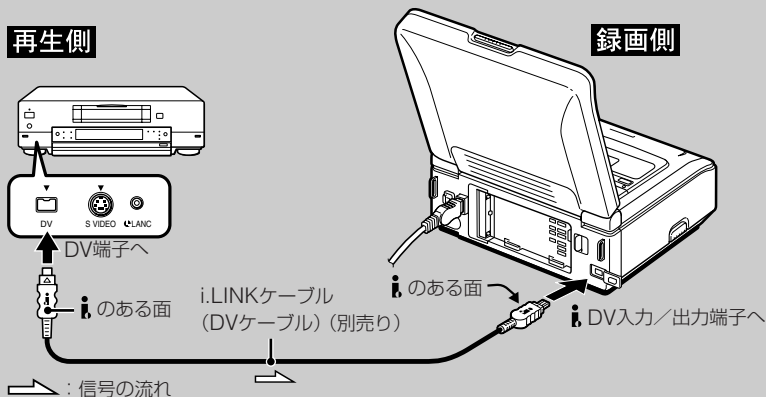
5 録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

録画が終わったら

本機で録画を停止し、再生側のビデオで再生を停止する。

次のページへつづく

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎ、本機で録画・編集ができます。
デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

ご注意

本機と異なるi.LINK仕様の機種では信号のやりとりができません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです。

デジタルダビング編集中は
モニター映像に色ムラが出ることがありますが、ダビングされた画像には影響はありません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、本機で再生したとき画像がぶれることがあります。

録画を始める前に
画面表示ボタンを押して、液晶画面に「DV入力」の表示が出るのを確認してください。
表示は両方の機器に出ることもあります。

1 カセットを準備する。

本機　：録画したいカセットを入れる。
再生機：録画済みのカセットを入れる。

2 本機の電源スイッチを「入」にする。

3 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

4 再生機で再生する。

ビデオやテレビの画像が画面に出る。

5 録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

録画が終わったら

本機で録画を停止し、再生機で再生を停止する。

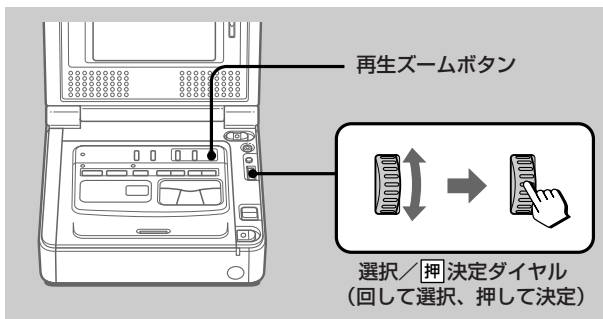
再生している画像を拡大する－再生ズーム

再生しているテープの動画や静止画を拡大
することができます。

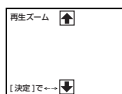
ご注意

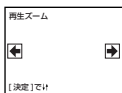
- Digital8方式以外で記録したテープでは、再生ズームはできません。
- 外部入力している画像に再生ズームを加えて見ることはできません。
- 再生ズームを加えた画像を本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

再生ズームを加えた画像は i DV入力／出力端子からは
出力されません。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
再生ズームは自動的に解除されます。

1 ［再生中］に
再生ズームボタンを押す。

画像の中心部が拡大され、↑↓←→が表示される。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して拡大された画像を上下に動かし、押して決定する。**

↑：画像が下に移動する。
↓：画像が上に移動する。

3 **選択／押決定ダイヤルを回して拡大された画像を左右に動かし、押して決定する。**

←：画像が右に移動する。
（ダイヤルを下へ回す）
→：画像が左に移動する。
（ダイヤルを上へ回す）

再生ズームを解除する

再生ズームボタンを押し、表示を消す。

応用

画像に特殊効果を加えて見る－ピクチャーエフェクト

再生しているテープの画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えて見ることができます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

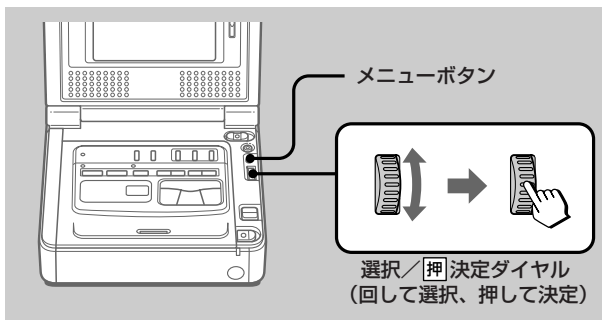
ソラリ
→明暗をはっきりさせたイラストのように

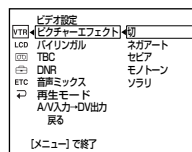
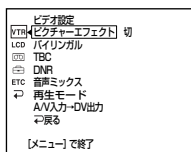
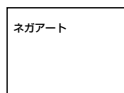
セピア→古い写真のような色合いに　**モノトーン**→白黒に

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープに、ピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- ピクチャーエフェクトを加えた画像を本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は
i.DV入力／出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

1 ［再生中］に
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して「ピクチャーエフェクト」を選び、ダイヤルを押す。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して希望のモードを選び、押して決定する。**

次の順で変わります。
ネガアート←→セピア←→モノトーン←→ソラリ

4 **メニューボタンを押してメニュー画面を消す。**

特殊な演出を加えて見る–デジタルエフェクト

再生しているテープの画像にデジタル機能を使ってさまざまな演出を加えることができます。

スチル
あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて再生する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り再生をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように再生する。

（スチル）

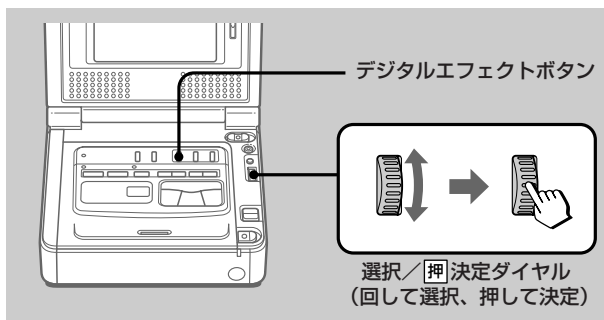
（ルミキー）

応用

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープに、デジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- デジタルエフェクトを加えた画像を本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

デジタルエフェクトを加えた画像は
i.DV入力／出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

1 ［再生中］に
デジタルエフェクトボタンを押す。
デジタルエフェクト表示が出る。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

次の順で変わります
スチル↔フラッシュ↔ルミキー↔トレイル

次のページへつづく

3 **選択／[押]決定ダイヤルを押して決定する。**

表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。
スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

4 **選択／[押]決定ダイヤルを回して、効果を調節する。**

調節する内容は以下の通り。

スチル	再生中の動画の背景にある静止画の映り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取り込む部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。

スチル IIIIIII

バー表示。大きくするほど効果が大きくなる。
次のデジタルエフェクトで表示される。
スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイル。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、表示を消す。

見たい場面にすばやく戻す－ゼロセットメモリー

テープカウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。
ソニーのデジタルビデオカメラレコーダーに付属のリモコンで操作できます。

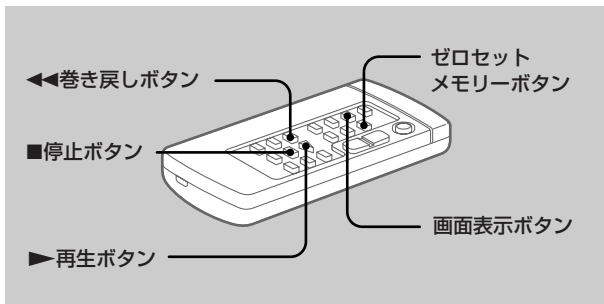
デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

再生中に、後からもう1度見たいと思う場面があったときなど。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう１度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。

テープの途中に記録されていない部分があると
ゼロセットメモリーが正しく働かない場合があります。

❶ ［再生中］に
画面表示ボタンを押す。

❷ **後から見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**
テープカウンター値が「0:00:00」になる。
ゼロセットメモリー表示が点滅する。

❸ **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止する。テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

❺ **►再生ボタンを押す。**
テープカウンター値「0:00:00」の場面からもう1度再生される。

録画・撮影日の変わり目を探す –日付サーチ

録画または撮影した日付の変わり目を自動的に探し、そこから再生を始めることができます（日付サーチ）。

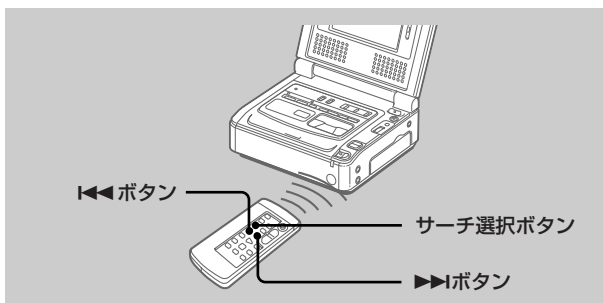
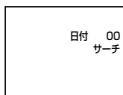
録画・撮影日の変わり目を確認したり、録画・撮影日ごとに編集するときなど。

ソニーのデジタルビデオカメラレコーダーに付属のリモコンで操作できます。

デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、日付サーチはできません。
- 日付や時刻を合わせないで、録画または撮影したテープでは、日付サーチは働きません。
- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

テープの途中に記録されていない部分があると
日付サーチが正しく働かないことがあります。

1 サーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。

次の順で変わります。
日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン

2 ⏮または⏭ボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

見たい静止画を探す－フォトサーチ／フォトスキャン

ソニーのデジタルビデオカメラレコーダーでテープフォト撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。

また、静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます(フォトスキャン)。

ソニーのデジタルビデオカメラレコーダーに付属のリモコンで操作できます。

デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

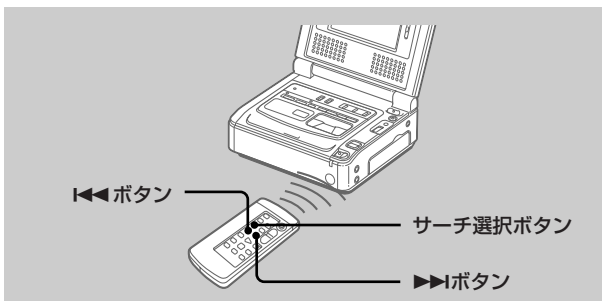
静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するときなど。

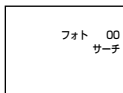
応用

ご注意

Digital8方式以外で記録したテープでは、フォトサーチ／フォトスキャンはできません。

テープの途中に記録されていない部分があると

フォトサーチ／フォトスキャンが正しく働かないことがあります。

静止画を探す－フォトサーチ

❶ サーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。

次の順で変わります。
日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン

❷ ⏮または⏭ボタンを押す。

静止画が再生される。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の静止画が再生される。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

次のページへつづく

静止画を次々に探す－フォトスキャン

❶ サーチ選択ボタンを押して、フォトスキャンを選ぶ。

フォト　00
スキャン

次の順で変わります。
日付サーチ→フォトサーチ→
フォトスキャン

❷ ⏮または⏭ボタンを押す。

静止画が約5秒ずつ再生される。

フォトスキャンを止める

■ 停止ボタンを押す。

録画・撮影日時とカメラデータを画面に出す – データコード

本機で録画したテープは、再生中に録画したときの日付・時刻を確認できます。また、データコード機能付きのDigital8方式のビデオカメラレコーダーで撮影したテープでは、再生中に、撮影したときの日付・時刻やカメラデータを確認できます。

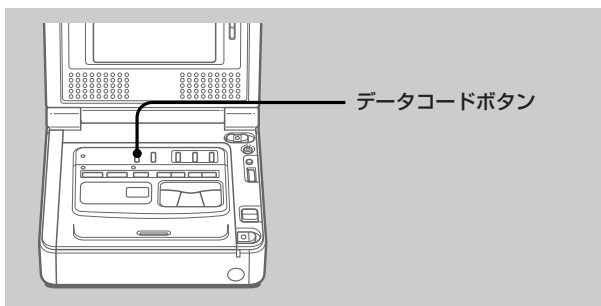
ご注意

Digital8方式以外で記録したテープでは、データコードは表示されません。

次のときは、「---- -- --」「--:--:--」を表示します。

- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を合わせないで録画または撮影したテープ

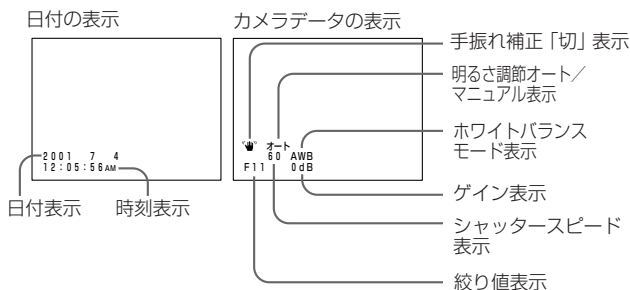
カメラデータとは

撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。

データコード機能とは

録画または撮影時の日時・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録する機能です。

データコードボタンを押す。

押すたびに次のように表示が変わります。

「日付表示」→「カメラデータの表示」→（表示なし）

カメラデータの表示を出さないようにする

メニューの「データコード」で「日付データ」を選ぶ。（44ページ）

データコードボタンを押すたびに次のように表示が変わります。

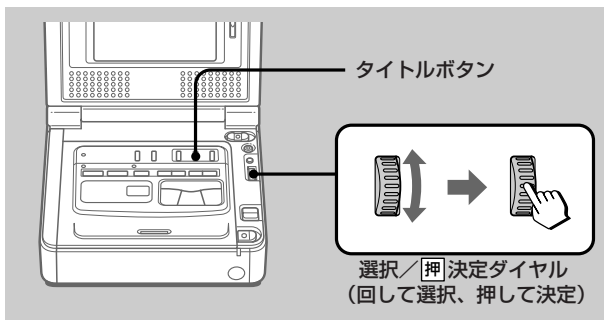
「日付表示」→（表示なし）

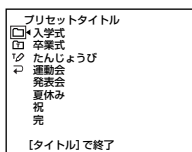
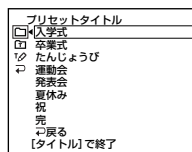
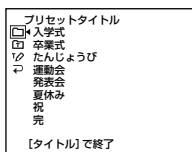
応用

タイトルを入れる

本機にあらかじめ登録してある8種類のタイトルと、自分で作ったオリジナルタイトル2種類（26ページ）の中から選んで、タイトルを入れることができます。また、タイトルの色やサイズ、表示位置も選べます。

オリジナルタイトルを入れるときは

手順2で□を選びます。

❶ タイトルボタンを押す。

タイトルメニューが表示される。

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して□を選び、押して決定する。

設定表示と表示順
「色設定」
しろ↔きいろ↔むらさき↔あか↔みずいろ↔みどり↔あお

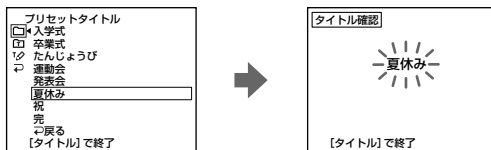
「サイズ設定」
ちいさい↔おおきい
12文字をこえるタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。12文字をこえるとサイズ決定後、「ちいさい」サイズに戻ります。

「位置設定」
1↔2↔3↔4↔5↔6↔7↔8↔9
大きい数字になるほど位置が下になります。
サイズ設定で「おおきい」を選んだときは、9の位置は選べません。

タイトルの選択／設定操作をしているときは
画面に出ているタイトルは記録できません。

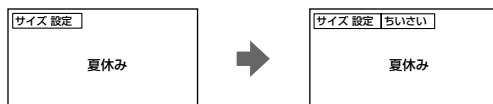
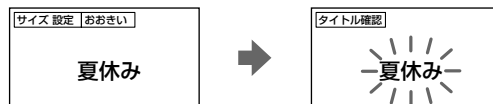
再生中に
タイトルを重ねることができます。ただし、テープには記録できません。
AV接続ケーブルをつないで他機へダビングするとタイトルも記録することができます。
i. LINKケーブルをつないでダビングする場合はタイトルは記録できません。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して入れたいタイトルを選び、押して決定する。

タイトルが点滅する。

❹ 色、サイズ、位置を選択する。

表示されているタイトルの色、サイズ、位置でよいときは手順5にすすむ。

1 選択／押決定ダイヤルを回して「色設定」または「サイズ設定」、「位置設定」を選び、押して決定する。

選べる項目が出る。

2 選択／押決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。

3 必要なだけ1、2を繰り返す。

❺ 選択／押決定ダイヤルを押して、タイトルを表示させる。

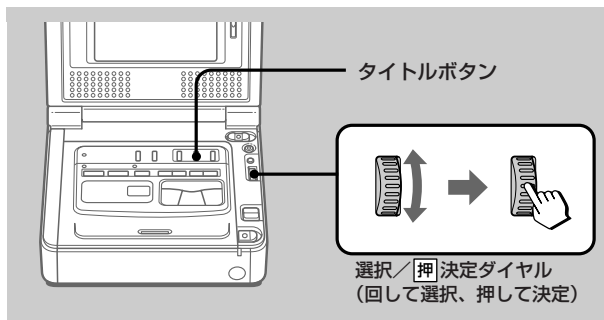
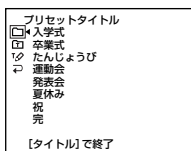
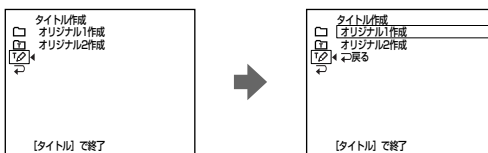
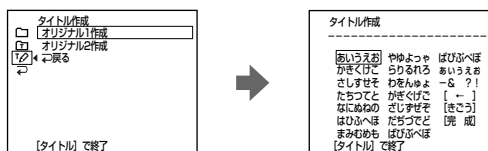
❻ 録画を始める。

❼ タイトルを消したい場面でタイトルボタンをもう一度押す。

録画の途中でタイトルを入れるとき

録画中にタイトルボタンを押し、手順2から5を行う。手順5で選択／押決定ダイヤルを押した時、タイトルが記録される。

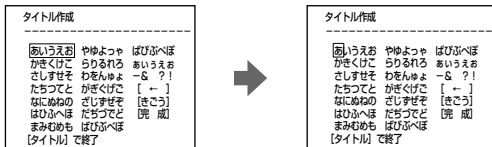
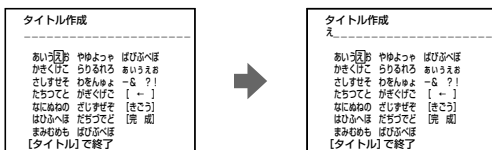
オリジナルタイトルを入れる

20文字以内のタイトルを自分で作って2種類
まで本機に記憶できます。

1 タイトルボタンを押す。

2 選択／押決定ダイヤルを回してを選び、押して決定する。

3 選択／押決定ダイヤルを回して「オリジナル1作成」または「オリジナル2作成」を選び、押して決定する。

［きごう］を選ぶと
アルファベットや数字、漢字などが選べる画面が出ます。［かな］を選ぶと、元の画面に戻ります。

文字を消すとき
［←］を選びます。一番後ろの文字が消えます。

漢字変換機能は
ありません。［きごう］にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。

空白を入れたいとき
［—＆　？！］の文字列の空白部分を選んでください。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して希望の文字列を選び、押して決定する。

❺ 選択／押決定ダイヤルを回して希望の文字を選び、押して決定する。

❻ 手順4、5を繰り返して希望のタイトルを作る。

❼ 選択／押決定ダイヤルを回して［完成］を選び、押して決定する。

タイトルが記憶される。

❽ タイトルボタンを押して、タイトル画面を消す。

作成したタイトルを変更する

手順3で変更したいオリジナルタイトルを選び、押して決定する。
［←］を選び、ダイヤルを押して文字を消し、文字を選び直す。

応用

他のビデオへダビングする

AV接続ケーブルでつなぐ

ジャックカバーを開ける

：信号の流れ

次のボタンを押して画面の表示を消してからダビングしてください。

- 画面表示ボタン
- データコードボタン

消さないでダビングするとテープに記録されてしまいます。

録画機は以下のどの方式のビデオでも使えます。

8, Hi8, VHS, VHS C, S VHS, S VHS C, β, ED Beta, Mini DV, DV, Digital8

音声入力端子がひとつ（モノラル）のビデオにつなぐときは

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぎます。（赤いプラグはどちらにもつながないでください。）音声はモノラルです。

別売りのS映像ケーブルを使うと

録画画像がより鮮明になります。ビデオにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像出力端子とビデオのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

❶ カセットを準備する。

本機　：録画済みのカセットを入れる。

録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチを外部入力（ライン）にする。詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「入」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画をはじめる。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

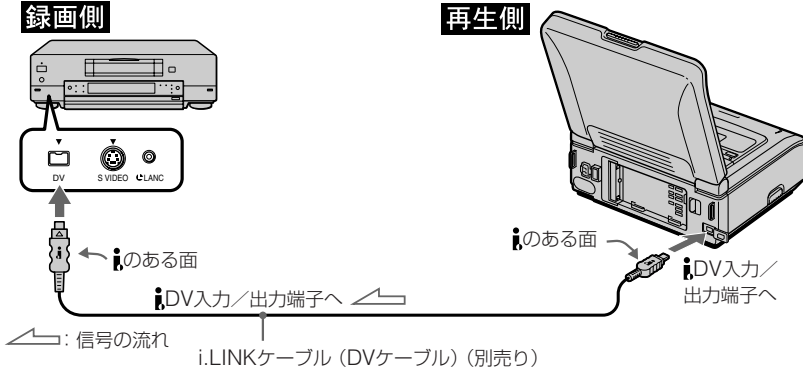
ダビングが終わったら

録画機で録画を停止し、本機で再生を停止する。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎダビング・編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

画面表示はダビングできません。

Digital8方式以外で記録したテープでは
画像が乱れることがありますが、故障ではありません。

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生中は
DV出力端子からの映像信号はデジタル信号が出力されます。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです
i.LINKについて詳しくは、56ページをご覧ください。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

1 カセットを準備する。

本機　：録画済みのカセットを入れる。
録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

2 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチがある場合は、「DV入力」にする。
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

3 本機の電源スイッチを「入」にする。

4 本機で再生する。

5 録画機で録画をはじめる。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

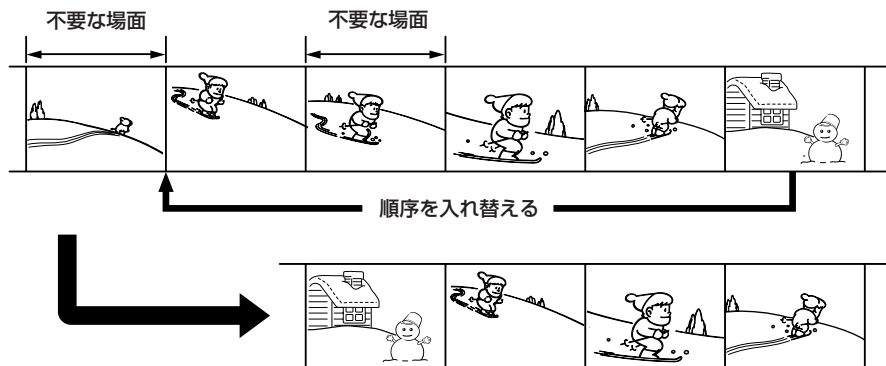
録画機で録画を停止し、本機で再生を停止する。

必要な場面を選びダビングする

ー デジタルプログラムエディット

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、録画機を操作せずに別のテープに簡単にダビングできます。

場面はフレーム単位で選べます。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、デジタルプログラムエディットはできません。
- 画面表示の内容はダビングできません。
- i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続したとき、録画機の機種により正しく操作できない場合があります。本機の「コントロール選択」を「リモコン」に設定してください。
- デジタルプログラムエディットの操作信号は、LANC端子では送信できません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐと

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

デジタルプログラムエディットには、次の準備が必要です

準備1： 録画機をつなぐ。（30ページ）

準備2： 録画機を操作するための設定をする。（31、34ページ）

準備3： 録画機のタイミングを補正する。（35ページ）

上記の準備を1度行なった録画機を使用する場合は準備2、3は不要です。

操作は以下の順で行ないます

操作1： プログラムを作る。（37ページ）

操作2： デジタルプログラムエディットを実行する（ダビングする）。（40ページ）

準備1 録画機をつなぐ

AV接続ケーブル、i.LINKケーブル（DVケーブル）どちらでも接続できます。AV接続ケーブルの場合は28ページ、i.LINKケーブル（DVケーブル）の場合は29ページの図のように接続します。

準備2 録画機を操作するための設定をする ー AV接続ケーブルで接続した場合

AV接続ケーブルで接続したときは、本機の赤外線発光部から録画機のリモコン受光部に録画機を操作するための信号を送ります。AV接続ケーブルで接続したときは、この設定を行ないます。

リモコンコードを設定する

1 本機の電源スイッチを「入」にする。

2 録画機の電源を入れ、入力切換を選ぶ。

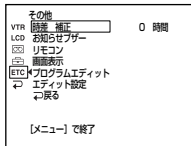
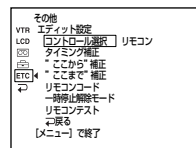
録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

4 選択／押決定ダイヤルを回して、ETCを選び、押して決定する。

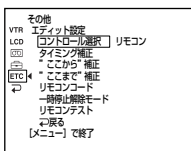
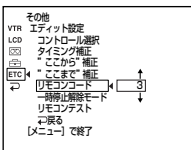
5 選択／押決定ダイヤルを回して、「エディット設定」を選び、押して決定する。

編集

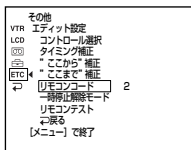
次のページへつづく

リモコンコードについて
本機には、下記のリモコンコードが記憶されています。お使いの録画機のリモコンコードを設定してください。お買い上げ時、本機は「3」に設定されています。

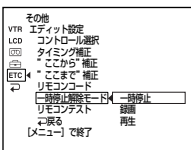
メーカー	リモコンコード
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
NEC	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

リモコンコードが対応していない機種は、デジタルプログラムエディットはできません。

6 選択／押決定ダイヤルを回して、「コントロール選択」を選び、押して決定する。

7 選択／押決定ダイヤルを回して、「リモコン」を選び、押して決定する。

8 選択／押決定ダイヤルを回して、「リモコンコード」を選び、押して決定する。

9 選択／押決定ダイヤルを回して、録画機のリモコンコード（番号）を選び、押して決定する。

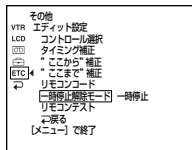
「リモコンコードについて」を参照する。

録画機の録画一時停止解除モードを設定する

1 選択／押決定ダイヤルを回して、「一時停止解除モード」選び、押して決定する。

録画一時停止解除モードについて

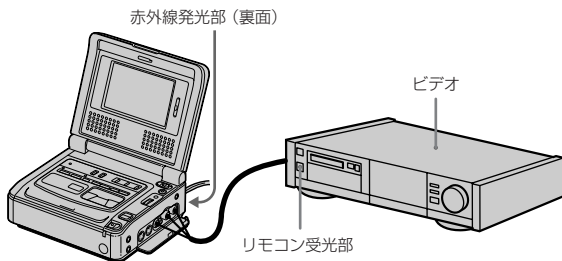
お使いの録画機で録画一時停止を解除し、録画を始めるときに押すボタンを下記よりお選びください。（ボタンの種類は録画機により異なります。）

それぞれのボタンに合った録画一時停止解除モードを設定してください。

録画機のボタン	録画一時停止解除モード
❚❚（一時停止）	「一時停止」
●（録画）	「録画」
►（再生）	「再生」

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して、録画機の録画一時停止解除モードを選び、押して決定する。

再生機と録画機の向きを合わせる

本機の赤外線発光部と録画機のリモコン受光部を向かい合わせる。

機器の距離は約30cm以上離し、間に障害物等がない状態にする。

録画機が正しく動くか確認する

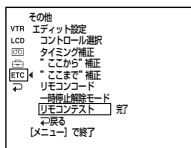
❶ 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して、「リモコンテスト」を選び、押して決定する。

次のページへつづく

編集

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して、「実行」を選び、押して決定する。

録画機が録画を開始すれば、正しく設定されている。
終了すると本機の液晶画面の表示は「完了」に変わる。

録画機が正しく動作したら

35ページの準備3へ進む。

録画機が正しく動作しないとき

- 「リモコンコードについて」のコードをご覧の上、「リモコンコード」または「録画一時停止解除モード」を設定し直す。
- 本機と録画機を約30cm以上離す。
- 録画機の取扱説明書をご確認ください。

準備2 録画機を操作するための設定をする ーi.LINKケーブル（DVケーブル）で接続した場合

i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続したときはこの設定を行ないます。

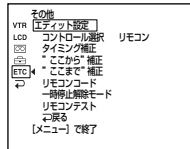
❶ 本機の電源スイッチを「入」にする。

❷ 録画機の電源を入れ、入力切換を「DV入力」にする。

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

4 選択／押決定ダイヤルを回して、ETCを選び、押して決定する。

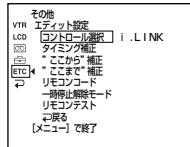
5 選択／押決定ダイヤルを回して、「エディット設定」を選び、押して決定する。

6 選択／押決定ダイヤルを回して、「コントロール選択」を選び、押して決定する。

7 選択／押決定ダイヤルを回して、「i.LINK」を選び、押して決定する。

準備3 録画機のタイミングを補正する

筆記具をご用意ください。
本機の動作と録画機の動作のタイミングの誤差を補正します。
本機のテープを取り出しておいてください。

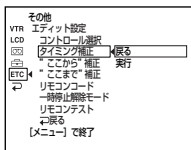
1 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

「コントロール選択」で「i.LINK」を選んだときは不要です。

ご注意

- タイミング補正用の画像が約50秒間録画されます。
- テープの頭から記録すると、始めの部分が切れることがあります。10秒ほどテープを送ってから記録してください。

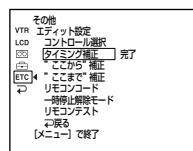
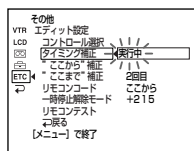
次のページへつづく

2 **選択／押決定ダイヤルを回して、「タイミング補正」を選び、押して決定する。**

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）接続で録画機の操作がうまく行なえないときは
接続はそのままで、31ページの準備2からやり直してください。映像／音声はデジタル信号で送られます。

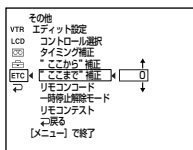
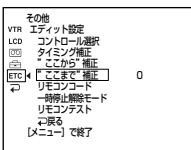
3 **選択／押決定ダイヤルを回して、「実行」を選び、押して決定する。**

録画機にタイミング補正用のカウンターが5回分入った画像が録画される。

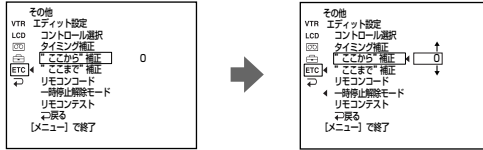
終了すると本機の液晶画面の表示は「実行中」の点滅から「完了」の点灯に変わる。

4 **録画機のカセットを巻き戻し、スロー再生する。**

5回分の「ここから」のカウンター数値と「ここまで」のカウンター数値が表示される。これらのカウンター数値の中から、各回ごとに「ここから」の最初に表示される数値と「ここまで」の最後に表示される数値をメモする。

5 **「ここから」の5回分の数値と「ここまで」の5回分の数値それぞれの平均値を計算する。**

6 **選択／押決定ダイヤルを回して、「" ここから" 補正」を選び、押して決定する。**

7 **選択／押決定ダイヤルを回して、「ここから」の平均値の数値を選び、押して決定する。**

録画開始のタイミングが補正される。

❽ **選択／押決定ダイヤルを回して、「” ここまで” 補正」を選び、押して決定する。**

❾ **選択／押決定ダイヤルを回して、「ここまで」の平均値の数値を選び、押して決定する。**

録画停止のタイミングが補正される。

❿ **選択／押決定ダイヤルを回して、「戻る」を選び、押して決定する。**

次の場合、「ここから」「ここまで」の設定はできません。
- Digital8方式以外で記録したテープ。
- テープの無記録部

次の場合、タイムコードが正しく表示されません。
- Digital8方式以外で記録したテープ。
- 「ここから」と「ここまで」の間に無記録部があるとき。

メニューの再生モードで「Hi8/8」を選んだときは
プログラムエディットは実行できません。

操作1 プログラムをつくる

❶ **本機に再生するカセットを入れ、録画機に録画するカセットを入れる。**

❷ **メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して、ETCを選び、押して決定する。**

次のページへつづく

編集

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して、「プログラムエディット」を選び、押して決定する。

❺ ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。（7ページ）

❻ 選択／押決定ダイヤルを押す。

最初のプログラム「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わる。

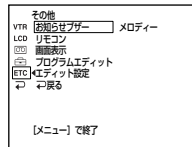
❼ ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。

❽ 選択／押決定ダイヤルを押す。

最初のプログラム「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わる。

❾ 手順5〜8を繰り返し、プログラムを設定する。

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わる。
最大20プログラムまで設定できます。

プログラムエディット 0:10:01:23
マーク 4 ここから
マークとりけし
全消去
スタート
トータル 0:00:47:12
プログラム 3
[メニュー] で終了

一度設定したプログラムを消す

最後に設定したプログラムの「ここまで」、「ここから」の順で消去していきます。

❶ 選択／押決定ダイヤルを回して、「マークとりけし」を選び、押して決定する。

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して、「実行」を選び、押して決定する。

最後に設定したプログラムマークが点滅し、設定が取り消されます。

消去を中止する

手順の2で「戻る」を選び、押す。

プログラムの全消去

❶ メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選ぶ。

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して、「全消去」を選び、押して決定する。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して、「実行」を選び、押して決定する。

設定したプログラムマークすべてが点滅し、設定が取り消されます。

次のページへつづく

全消去を中止する

手順の2で「戻る」を選び、押す。

プログラムを中止する

メニューボタンを押す。

設定したプログラムはテープを取り出さないかぎり記憶されます。

以下の場合には、録画機で録画できません

- カセットが入っていない。
- テープが終わりになっている。
- テープが誤消去防止状態になっている。
- リモコンコードが合っていない。（「リモコン」に設定したとき）
- 録画一時停止解除モードがまちがっている。（「リモコン」に設定したとき）
- プログラムが未設定
- i.LINKケーブル（DVケーブル）を接続していない。（「i.LINK」に設定したとき）
- 接続している録画機の電源が入っていない。

操作2 デジタルプログラムエディットを実行する（ダビングする）

機器の接続と録画機が録画一時停止状態であることを確認する。（i.LINKでの接続のときは不要です。）

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❶ 「プログラムエディット」を選択し、選択／押決定ダイヤルを回して、「スタート」を選び、押して決定する。

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して、「実行」を選び、押して決定する。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始する。このとき、実行中のプログラムマークが点滅する。

本機の液晶画面の表示は、サーチ中は「サーチ中」と表示される。

ダビングの終了したプログラムはプログラムマークが水色に変わる。

ダビングが終わると本機も録画機も自動的に停止する。

ダビングを中止する

ビデオ操作ボタンの■停止ボタンを押す。

デジタルプログラムエディットを終了する

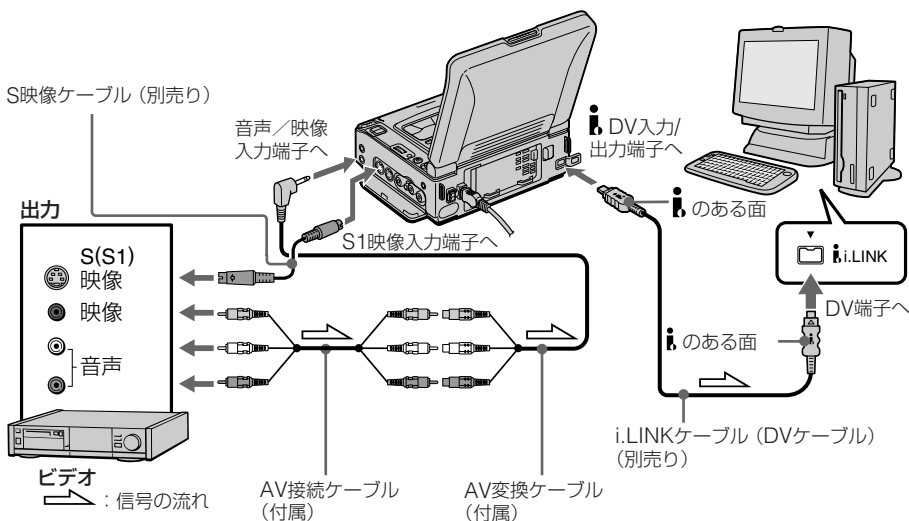
ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻る。

終了するには、メニューボタンを押す。

アナログ機器とパソコンをつなげて使う
−デジタル変換機能

本機を通してデジタル信号とアナログ信号の相互変換ができます。

本機のAV端子にアナログビデオ機器などをつなぎi.LINKケーブル（DVケーブル）でパソコンにつなぐと、アナログビデオの映像・音声をパソコンに取り込めます。

編集

ご注意

- ビデオ信号の取り込みができるソフトウェアがパソコン側にインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機からのDV出力をパソコンに入力した場合、正しいアナログ映像を出力することができないことがあります。受信機によっては色消えやノイズがでることがあります。
- 著作権保護の為の信号（ID-2方式など）が記録されているソフトを再生して本機に入力し、本機から出力された信号を録画したり、パソコンで取り込むことはできません。

別売りのS映像ケーブルを使うと

録画画像がより鮮明になります。ビデオやテレビにS(S1)映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子(映像)のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像端子とビデオ、またはテレビのS(S1)映像端子を接続することをおすすめします。

アナログビデオ機器の映像・音声をパソコンに取り込む

1 本機の電源スイッチを「入」にする。

2 メニューで「VTR」の項目の「A/V入力→DV出力」を「入」にする。（44ページ）

3 アナログビデオ機器で再生を始める。

4 パソコンで取り込み動作を始める。

取り込むための操作は、パソコンでお使いになるソフトウェアによって異なります。操作について詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

取り込みが終わったら

パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器の再生を停止する。

録画したテープに新しく画像を挿入する

録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。

ソニーのデジタルビデオカメラレコーダーに付属のリモコンで操作できます。

13ページまたは14ページの接続と準備をし、挿入したい部分の入ったテープを他機に入れておきます。

(a)

テープの走行方向 → ／ ←挿入したい部分→

挿入したい部分の入ったテープ（他機）

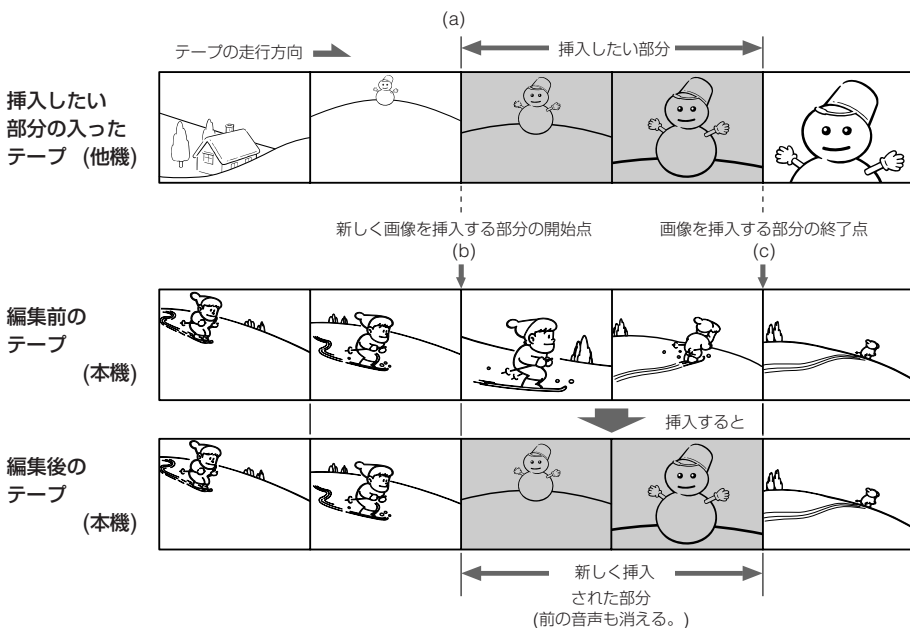
新しく画像を挿入する部分の開始点 (b) ／ 画像を挿入する部分の終了点 (c)

編集前のテープ（本機）

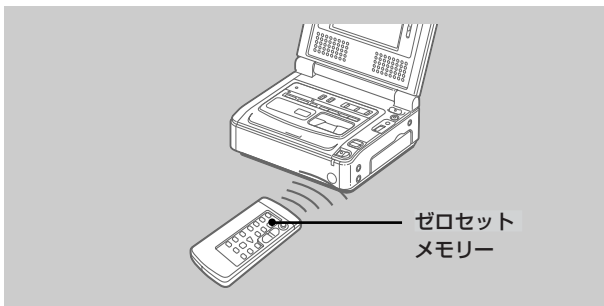
挿入すると

編集後のテープ（本機）

←新しく挿入された部分→（前の音声も消える。）

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えます。

新しく挿入された部分を再生すると

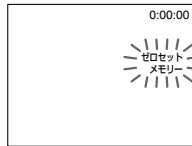
終了点の画像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。

❶ 本機の電源スイッチを「入」にする。

終了点を設定せずに録画するときは
手順3、4をとばします。
終了したいところで■停止ボタンを押します。

❷ **他機（再生側）で、挿入したい部分（a）の少し前で、再生一時停止状態にする。**

❸ **本機で、挿入部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする（a）。**

❹ **リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す（b）。**

「ゼロセットメモリー」表示が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になる。

❺ **本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。**

●録画ボタンを2つ同時に押す。

❻ **他機（再生側）の一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本機のII一時停止ボタンを押す。**

本機の挿入部分に、新たに他機（再生側）の映像と音声が記録され始める。

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止になり、ゼロセットメモリーが解除される。

終了点の位置を変える

手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順3からやり直す。

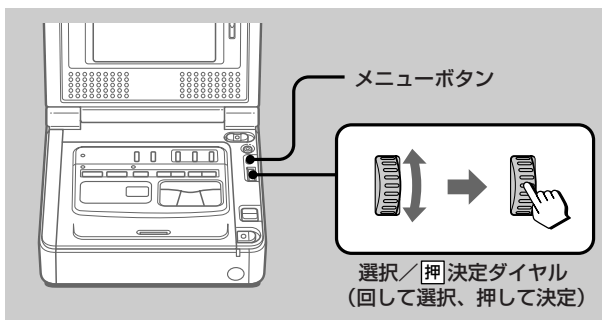
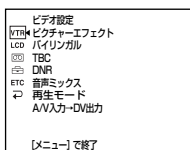
メニューで設定を変える

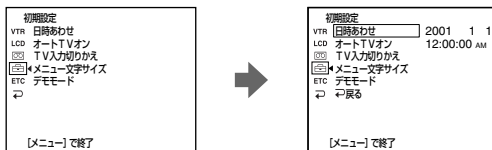
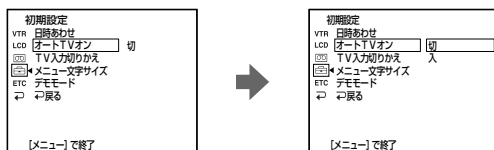
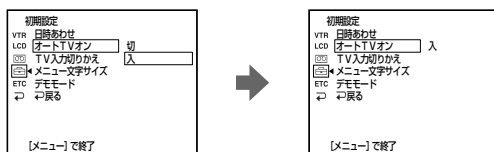
画面上のメニュー項目を、選択／押決定ダイヤルで選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。

次の順で選択します。

メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

メニュー項目は
以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

- VTR ビデオ設定
- LCD パネル設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

❶ メニューボタンを押す。

❷ 選択／押決定ダイヤルを回して希望のアイコンを選び、押して決定する。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して設定を切り換え、押して決定する。

❺ 必要なだけ手順2〜4を繰り返す。

手順2に戻るには、選択／押決定ダイヤルを回して「戻る」を選び、ダイヤルを押す。

詳しくは「各設定項目の説明」（46ページ）をご覧ください。

メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

次のページへつづく

メニューで設定を変える（つづき）

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、その時使える項目のみ表示されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）
VTR ピクチャーエフェクト	●切	映像に特殊効果をかけない。
	ネガアート	映像を写真のネガフィルムのようにする。（16ページ）
	セピア	映像を古い写真のような色合いにする。（16ページ）
	モノトーン	映像を白黒にする。（16ページ）
	ソラリ	映像を明暗をはっきりさせたイラストのようにする。（16ページ）
バイリンガル	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（55ページ）
	メイン	左音声または主音声で再生する。
	サブ	右音声または副音声で再生する。
TBC*	●入	ジッター（再生時の画像の横ユレ）を低減する。
	切	画像の乱れ補正が働かない。（ダビング等を繰り返したり、ゲーム機の信号などを記録したテープを再生するとき）
TBCとは Time（タイム） Base（ベース） Corrector（コレクター） の略です。		
DNR*	●入	画像の色ノイズを目立たなくする。
	切	動きの激しい画像のとき残像を目立たなくする。
DNRとは Digital（デジタル） Noise（ノイズ） Reduction（リダクション） の略です。		
音声ミックス	—	音声モードST1←→ST2間のバランスを調節する。 ST1 ▲ ST2
再生モード	●オート	再生テープを自動判別（Hi8/スタンダード8ミリ方式またはDigital8方式）して、再生する。
	Hi8 / 8	自動判別できないHi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを、再生する。
A/V入力 → DV出力	●切	本機を通してデジタル画像をアナログ出力する。
	入	本機を通してアナログ画像をデジタル出力する。（41ページ）

*Hi8/スタンダード8ミリ方式での再生時のみ

ピクチャーエフェクトは
Digital8方式以外で記録したテープに加えて見ることはできません。

音声ミックスは
- 16ビットモードで記録されたテープのバランスを調節することはできません。
- Digital8方式以外で記録したテープのバランスを調節することはできません。

再生モードは
- 次のときお買い上げ時の設定に戻ります。
  – 電源をはずしたとき
  – 電源スイッチを切り換えたとき

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）
LCD パネルバックライト	●明るさノーマル	液晶画面の明るさを標準にする。
	明るい	液晶画面を明るくする。
パネル色のこさ	—	液晶画面の色のこさを選択/押決定ダイヤルを回して、調節する。 うすくなる ←→ こくなる
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。
音声モード*	●12BIT	12ビットモード（2つのステレオ音声）の記録、再生ができる。
	16BIT	16ビットモード（高音質で1つのステレオ音声）の記録、再生ができる。
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • 電源／テープを入れた後、テープ残量が確定してから8秒間。 • ▷再生ボタンまたは画面表示ボタンを押してから8秒間。 • 早送り、巻き戻し、ピクチャーサーチ中。
	入	テープ残量を常に表示する。
データコード	●日付／カメラデータ	データコードボタンを押したとき、日付・時刻とカメラデータを表示する。
	日付データ	データコードボタンを押したとき、日付・時刻を表示する。

「パネルバックライト」の「明るい」を選ぶと
バッテリー使用時間が約1割短くなります。

LPモードについて
- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- テープの途中でSP／LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

スタンダード8 8 テープをお使いの場合
「録画モード」で「LP」を選んでも「SP」モードで録画されます。このとき、「Hi8テープでなければLP録画できません SP録画になります」と液晶画面に表示されます。「LP」モードのときはHi8テープをお使いください。

* **他のビデオへダビングするとき**
Digital8方式で記録されたテープでは音声モードは選べませんが、Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープをi.LINKケーブルで出力するときは、音声モードを選ぶことができます。

次のページへつづく

アイコン／項目		設定	設定の意味（参照ページ）
日時あわせ		—	日付・時刻を合わせ直す。（50ページ）
	オートTVオン	●切	—
		入	SUPER LASER AVLINK機能を使うとき、自動的にソニー製テレビの電源を入れる。（12ページ）
	TV入力切りかえ	●ビデオ1 ビデオ2 ビデオ3	SUPER LASER AVLINK機能を使うとき、自動的にソニー製テレビの入力を切りかえる。（12ページ）
		切	—
	メニュー文字サイズ	●ノーマル	通常の大きさでメニュー表示をする。
		2×	選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。
	デモモード	●切	デモンストレーションを表示しない。
		入	本機の機能を一覧できる。

デモモードについて
カセットが入った状態では操作できません。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）
ETC 時差補正	—	時差の設定をする。 選択／押 決定ダイヤルを回して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。
おしらせブザー	●メロディー	電源スイッチを入れたときやメニュー操作をするとき、または誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。
	ノーマル	メロディーのかわりにブザーが鳴る。
	切	メロディー、ブザー音が鳴らない。
リモコン	●VTR 2	ソニー製ビデオカメラレコーダーのリモコンを使って本機を作動させる。
	VTR1〜6	ソニー製のリモコンを使って本機を作動させる。 （詳しくは9ページ）
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。
画面表示	●パネル	カウンターなどの画面表示を液晶画面に出す。
	ビデオ出力／パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。
プログラムエディット	—	プログラムの作成、実行をする。（30ページ）
エディット設定	—	デジタルプログラムエディットでダビングするときに、録画機を操作するための設定とタイミング補正をする。（30ページ）

ご注意

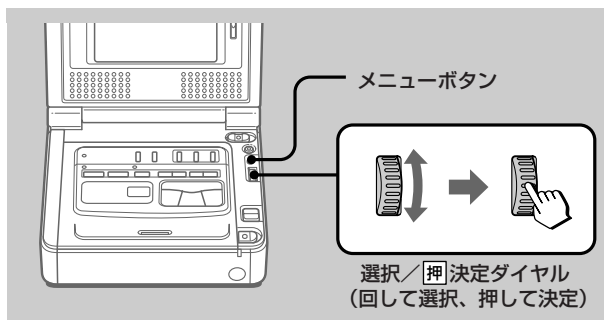
i.LINKケーブル（DVケーブル）で出力しているとき、画面表示は出ません。

電源をはずして5分以上たつと

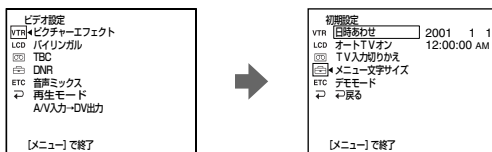
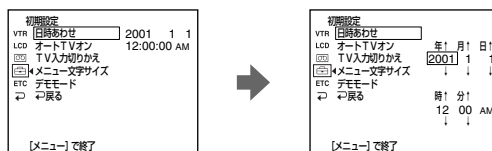
「バイリンガル」、「音声ミックス」はお買い上げ時の設定に戻ります。
その他のメニュー項目は、電源をはずしても設定を保持します。

日付・時刻を合わせ直す

お買い上げ時にあらかじめ日付・時刻は設定されていますが、半年近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（65ページ）

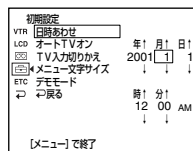
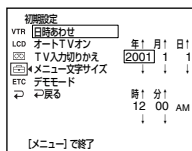
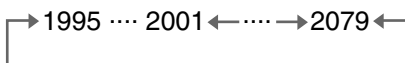
日時を設定しないと
テープのデータコードには「---- -- --」「--:--:--」が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

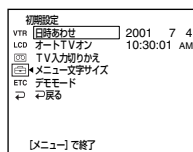
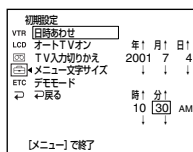
1. メニューボタンを押す。

2. 選択／押決定ダイヤルを回して[アイコン]を選び、押して決定する。

3. 選択／押決定ダイヤルを回して「日時あわせ」を選び、押して決定する。

真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

❹ 「年」を合わせる。

選択／[押]決定ダイヤルを回して「年」を合わせ、押して決定する。

年表示は次のように変わる。

❺ 手順4と同様に「月」、「日」、「時」、「分」を合わせる。

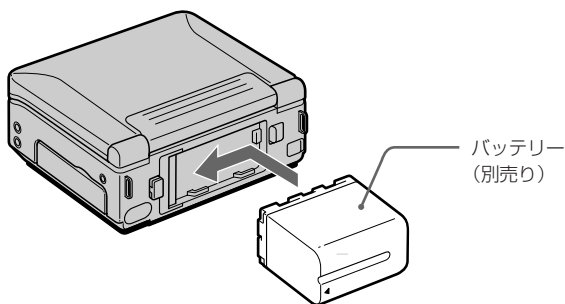
選択／[押]決定ダイヤルを回して「分」を合わせて時報と同時に押して決定する。時計が動き始める。

❻ メニューボタンを押す。

メニュー画面が消える。

別売りバッテリーを使う

本機の電源には、“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。

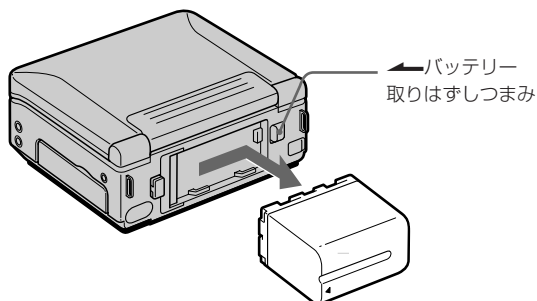
バッテリーを取り付ける

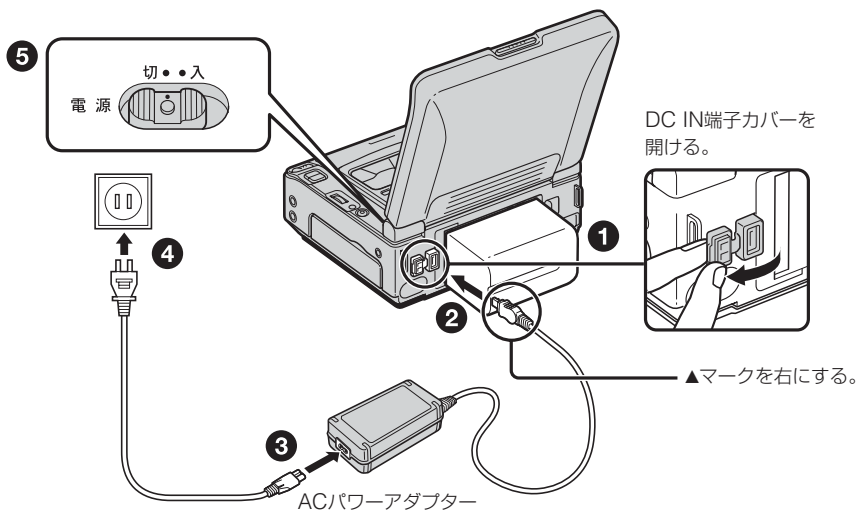
本機を屋外で使用するときは、別売りのバッテリーを取り付けます。

バッテリーを取り付けた後は
バッテリーをつかんで本機を持ち運ばないでください。

バッテリー残量時間表示について
”インフォリチウム”バッテリーをお使いのときは、あと何分連続で使えるかを液晶画面に表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。
バッテリーが寿命のときはメッセージが出ます。液晶画面を閉じたときは、開いてから正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

バッテリーを押しながら矢印の方向へずらす。

本体からはずす

◀━バッテリー取りはずしつまみを押しながらバッテリーを右へずらし、取りはずす。

バッテリーを充電する

バッテリーは充電してからお使いください。本機でバッテリーの充電ができます。

ご注意

- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- バッテリーは水にぬらさないでください。
- バッテリーを使用せずに長期間保管するときは、一度満充電してから使い切り、涼しい場所に保管してください。

満充電になると

電源／充電ランプが消灯します。

バッテリーは

お買い上げ時に若干充電されています。

1 バッテリーを取り付ける。

2 ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。

DC IN端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークを右にしてつなぐ。

3 電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。

4 電源コードをコンセントにつなぐ。

5 電源スイッチを「切」にする。

充電が始まると、電源／充電ランプがオレンジ色に点灯する。

バッテリーの充電が終わったら

ACパワーアダプターをDC IN端子から抜く。

次のページへつづく

海外でも充電できます
詳しくは63ページをご覧ください。

バッテリー残量の表示時間が充分なのに電源がすぐに切れるときは
満充電すると正しく表示されます。

再生時間
右の表はDigital8 方式再生時の時間の目安です。Hi8/スタンダード8ミリ再生時には、再生できる時間が20%ほど短くなります。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは
“インフォリチウム”バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持ったリチウムイオンバッテリーです。本機は“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム”バッテリーLシリーズには InfoLITHIUM L SERIES マークがついています。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）
NP-F330	150（90）
NP-F530/CF540/F550	210（150）
NP-F730/F750	300（240）
NP-F930/F950	390（330）
NP-F960	420（360）

使い切ったバッテリーを充電したときの時間（約　分）。

再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-F330	60（55）	105（95）
NP-F530	100（90）	175（160）
NP-CF540	120（110）	205（185）
NP-F550	130（115）	210（190）
NP-F730	225（205）	365（325）
NP-F750	265（235）	440（395）
NP-F930	360（325）	575（520）
NP-F950	405（360）	675（610）
NP-F960	475（430）	790（710）

満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
低温では使用時間が短くなります。
NP-500/510/710はお使いになれません。

Digital8（デジタルエイト）Ð方式と記録・再生

Digital8（デジタルエイト）Ð方式とは

Hi8（ハイエイト）Hi8/Digital8（デジタルエイト）Ðテープに、デジタル記録できるように開発されたビデオ方式です。

使えるカセットテープ

Hi8（ハイエイト）Hi8/Digital8（デジタルエイト）Ðテープをおすすめします。*

Digital8（デジタルエイト）Ð方式での録画時間は従来のHi8/スタンダード8方式の録画時間の半分になります（120分テープでは、SPモードで60分）。

* スタンダード8ミリ8テープにも録画できますが、本機で再生することをおすすめします。本機以外（他のＧＶ-Ｄ800を含む）での再生時にモザイク状のノイズが現れることがあります。

再生方式

Digital8（デジタルエイト）Ð方式とHi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式を自動判別して再生します。

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生中、DV出力端子から映像、音声のデジタル信号が出力されます。

著作権信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットは本機で録画することはできません。
このようなカセットを録画しようとすると液晶画面に「ダビングプロテクトされています録画できません」の表示が現れます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

音声多重記録テープを再生するとき

Digital8（デジタルエイト）Ð方式で記録されたテープのとき

DV方式で記録された音声多重記録テープを、Digital8（デジタルエイト）Ð方式テープにデジタルダビングし、再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。
（46ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープのとき

AFM Hi-Fiステレオ方式で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	モノラル音声	主音声
「サブ」にする	不自然な音声になります	副音声

本機では二重音声は記録できません。

ご注意

- Digital8（デジタルエイト）Ð方式で記録されたテープは、Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式のビデオ機器では再生できません。
- 本機では、Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式のRCタイムコードとデータコードの表示はできません。
- 他のビデオデッキでPCM録音やアフレコした音声は、本機では再生できません。

8は商標です。
Hi8は商標です。
Ðは商標です。

自動判別中の表示

Digital8（デジタルエイト）Ð方式とHi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式を判別し、自動で再生方式を切り替えます。このとき画面が青画面になり下記の表示が出ます。また「ザー」とノイズ音が出ることがあります。

Ð → Hi8/8：Digital8（デジタルエイト）Ð方式からHi8/スタンダード8ミリ方式に切り換え中
Hi8/8 → Ð：Hi8/スタンダード8ミリ方式からDigital8（デジタルエイト）Ð方式に切り換え中

その他

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV入力／出力端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Megabits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については14ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。

接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を合わせてご覧ください。

ご注意

i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINK接続する場合は、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いた状態で、i.LINKケーブルを抜き差ししてください。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください
4ピン←→4ピン（DVダビング時）

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店にお問い合わせください。

液晶画面に「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。60ページをご覧ください。

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチを「入」にしても動作しない	• ACパワーアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	• コンセントに差し込む。	4
	• バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。	• 充電されたバッテリーを取り付ける。	52, 53
再生できない	• 電源スイッチが「入」になっていない。	• 「入」にする。	6
	• テープが終わりになっている。	• テープを巻き戻す。	7
ノイズが多かったり、映らなかったりする	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	64
音声が小さいまたは聞こえない	• 音量を最小にしている。	• 音量を大きくする。	6
	• メニューの「バイリンガル」を「サブ」にしてステレオで記録されたテープを再生している。	• 「バイリンガル」を「切」にする。	8, 46
	• メニューの「音声ミックス」が「ステレオ2」側になっている。	• 音声ミックスを調節する。	46
日付サーチが誤動作する	テープの途中に無記録部分がある。		20
Digital8方式で記録された部分の画像が映らない	メニューの「再生モード」が「Hi8/8」になっている。	「再生モード」を「オート」にする。	44
Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープが正しく再生されない	—	メニューの「再生モード」を「Hi8/8」にしてみる。	44

次のページへつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
録画できない	● 電源スイッチが「入」になっていない。 ● テープが終わりになっている。 ● カセットが誤消去防止状態になっている。 ● テープがヘッドドラムに貼りついている（結露）。	●「入」にする。 ● 巻き戻すか、新しいテープを入れる。 ● そのテープで録画するなら誤消去防止ツマミを元に戻す。または新しいテープを入れる。 ● カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	6 5、7 5 64
LPモードで録画できない	スタンダード8テープを使っている。	Hi8 /Digital8 テープを使う。	47
カセットが取り出せない	● 電源（バッテリーやACパワーアダプター）がはずれている。 ● バッテリーが消耗している。	● 電源をきちんと接続する。 ● 充電されたバッテリーを取り付ける。	4、52 52, 53
や⏏が点滅し、カセットの取り出しスイッチ以外働かない	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	64
電源が入っているのに操作できない	—	ACパワーアダプターまたはバッテリーを取りはずし、約1分後再びACパワーアダプターまたはバッテリーを取り付け電源を入れる。それでも操作できないときは本体底面のリセットボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	4、70
バッテリーの消耗が早い	● 周囲の温度が極端に低い。 ● 充電が不充分。 ● バッテリーそのものの寿命。	— ● 満充電する。 ● 新しいバッテリーに交換する。	— 53 52

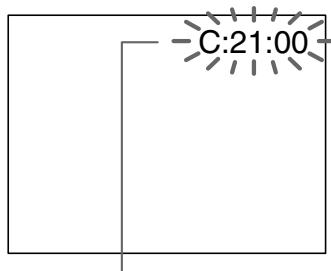
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
本体に取り付けたバッテリーを充電できない	本機の電源スイッチが「切」になっていない。	電源スイッチを「切」にする。	53
バッテリー充電中に充電ランプが点滅する	バッテリーが故障している。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。	—
おしらせブザーが5秒間鳴りつづける	• 結露している。	• カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	64
	• 本機に異常が発生している。	• カセットを入れ直し、再度操作し直す。	—
ダビング編集中、i.LINKケーブル（DVケーブル）を正しく接続しているのにモニター画像が出ない	—	i.LINKケーブル（DVケーブル）を一度ぬいてからもう一度接続し直す。	29
デジタルプログラムエディットが働かない	• 録画機側の入力切換ができていない。	• 接続を確認して録画機側の入力切換スイッチを設定し直す。	31
	• ソニー以外のDV機器と接続している。	• 操作を「リモコン」にする。	31
	• 無記録部分にプログラム設定しようとしている。	• 録画された部分に設定し直す。	37
	• 本機と録画機の録画のタイミングが合わない。	• タイミング補正をする。	35
リモコンが働かない	• リモコンコードが合っていない。または「切」にしている。	• リモコンに合わせてメニューの「リモコン」の設定を変える。	9、49
	• リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。	• 障害物を取り除く。	—
	• リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。	• ⊕極と⊖極を正しく入れる。	—
	• 乾電池そのものの寿命。	• 新しい乾電池に交換する。	—

自己診断表示－アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、液晶画面にアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

液晶画面

自己診断表示
「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態
「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターに相談していただく状態

表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーをご使用ください。	52
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	64
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	64
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	• カセットを入れ直し、再度操作し直す。 • 電源を一度取りはずし、取りつけ直してから再度操作し直す。	— —
E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	—

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

警告表示とお知らせメッセージ

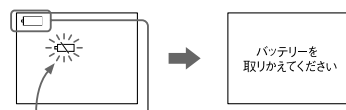
警告ランプが点滅し、画面に次のような表示が出ます。詳しい説明は、( ) 内のページにあります。

警告ランプのみが点滅し、画面に警告表示が出ないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店にお問い合わせください。

♪：おしらせブザー音が鳴ります。

：警告ランプがオレンジ色に点滅します。

：電源／充電ランプが緑色に点滅します。

バッテリー残量

遅い点滅　バッテリー残量表示

バッテリー残量表示について*

残量表示が になると液晶画面に マークが点滅する。

* 残量時間は使用状況や環境により正しく表示されない場合があります。

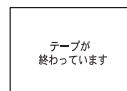
テープ残量

録画ランプ（赤）も同時に点滅します。

残量表示が5分になると マークとテープ残量表示が点滅する。

♪テープの終わり

録画ボタンを押したときのみ出ます。

テープが
終わっています

日付・時刻の未設定（50ページ）

日付、時刻を設定してもこのメッセージが出る場合は、内蔵の充電式ボタン電池が放電しています。充電してください。（65ページ）

メニューで
日付 時刻を
あわせてください

バッテリーの寿命

インフォリチウムバッテリーをお使いのときのみ表示が出ます。

このバッテリーは
古くなりました
取りかえてください

♪カセットが入っていない

録画ボタンを押したときのみ出ます。

カセットを
入れてください

♪カセット誤消去防止

カセットの誤消去防止ツマミを確認する。

カセットの
誤消去防止ツマミを
確認してください

♪ダビングできない（55ページ）

著作権保護のための信号が記録されている画像を本機で録画しようとしたとき出ます。

ダビングプロテクト
されています
録画できません

ヘッド汚れ（64ページ）

クリーニングカセットできれいにする。

遅い点滅

クリーニングカセットを
つかってください

遅い点滅

次のページへつづく

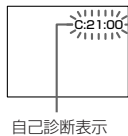
その他

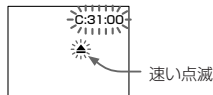
♪☼結露（64ページ）

テープを取り出し、カセット入れを開けたまま約1時間放置する。

♪☼自己診断表示機能が働いている（60ページ）

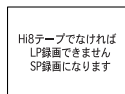
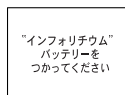
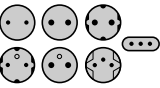
本機が正しく動作していないとき、自己診断表示機能で本機の状態をお知らせしています。「C:□□:□□」のような表示が出たら、60ページをご覧ください。

自己診断表示

♪☼その他の異常

一度電源を切り、バッテリーを取りはずす。再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。それでも表示が消えないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店にご相談ください。

♪☼LPモードで録画できない（47ページ）

LPモードのときはHi8テープをお使いください。

Hi8テープでなければ
LP録画できません
SP録画になります

☼☼“インフォリチウム”バッテリー（54ページ）

"インフォリチウム"
バッテリーを
つかってください

海外で使う

本機は外国でもお使いになれます

付属のACパワーアダプターAC-L15A は、AC100V～240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

トラベルコンバーターはご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米、南米など	主にヨーロッパなど
使用する変換アダプター	**不要です。** ACパワーアダプターのプラグを直接差し込みます。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像／音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

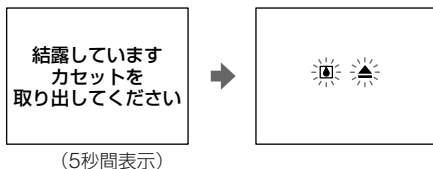
時差補正機能について

海外でお使いになるときはメニューで ETC「時差補正」を選べば、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは49ページをご覧ください。

お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、液晶画面に下のように警告表示が出ます。

（5秒間表示）

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取り出しスイッチ以外は働きません。
電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

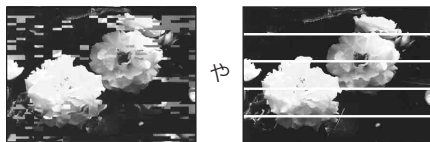
ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。
次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットV8-25CLD/V8-25CLDRを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

Digital8（デジタルエイト）方式での再生／録画

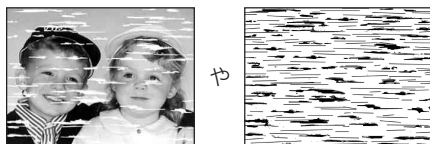
- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- 液晶画面に「ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式での再生

- 再生画面がザラついている。
- 再生画面が不鮮明。
- 再生画像が出ない。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し半年近く全く使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

本機を付属のACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切」にして24時間以上放置する、。

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz (ステレオ1、ステレオ2) 16ビット48kHz (ステレオ)
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Hi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）ビデオカセットテープ
録画／再生時間	SPモード：60分（Hi8 120分テープ使用時） LPモード：90分（Hi8 120分テープ使用時）
早送り、巻き戻し時間	約5分（Hi8 120分テープ使用時）

入・出力端子

S1映像入力端子	4ピンミニDIN（1） 輝度信号：1Vp-p、75Ω不平衡、同期負 色信号：0.286Vp-p、75Ω不平衡
S1映像出力端子	4ピンミニDIN（1） 輝度信号：1Vp-p、75Ω不平衡、同期負 色信号：0.286Vp-p、75Ω不平衡
映像音声入力端子	AVミニジャック（1） 映像：1Vp-p、75Ω不平衡 音声：327mV、インピーダンス47kΩ以上
映像出力端子	ピンジャック（1） 1Vp-p、75Ω不平衡
音声出力端子	ピンジャック（L、R）（2） 327mV、（47kΩ負荷時） インピーダンス　1kΩ以下
RFU DC OUT 端子	特殊ミニジャック　DC5V
i.DV入力／出力端子	i.LINK（IEEE1394.4ピンコネクター）
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）（1）
LANC端子	ステレオミニミニジャック（Ø2.5）（1）

液晶画面

画面サイズ	10cm（4型）
有効画面領域	80.6×60.5mm （幅×高さ）
使用液晶パネル	TFT（薄膜トランジスタアクティブマトリクス）駆動
総ドット数	123 200ドット 横560×縦220

SUPER LASER AVLINK

映像／音声	IR空間伝送EIAJ*準拠
音声キャリア	L ch：4.3MHz R ch：4.8MHz

電源部、その他

電源電圧	7.2V（バッテリー端子入力） 8.4V（DC IN端子）
消費電力	録画時　5.4W （Digital8 方式） 再生時　4.9W （Digital8 方式） スーパーレーザーエーブイリンク使用による再生時: 5.9W （Digital8 方式）
動作温度	0℃～＋40℃
保存温度	−20℃～＋60℃
最大外形寸法	148×65×135mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約930g（テープ含まず）
スピーカー	ダイナミックスピーカー（2）
付属品	ACパワーアダプター AC-L15A（1） AV接続ケーブル（1） AV変換ケーブル（1） 電源コード（1） 取扱説明書（1） 取扱説明書（安全のために）（1） 保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

＊EIAJ（日本電子機械工業会）規格

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

このデジタルビデオカセットレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルビデオカセットレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

各部のなまえ 使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

画面表示ボタン（6ページ）

データコードボタン（23ページ）

警告ランプ（61ページ）

●録画ボタンとランプ（13ページ）

II一時停止ボタンとランプ（7ページ）

◀II ＜コマ送り（−）ボタン（7ページ）

デジタルエフェクトボタン（17ページ）

タイトルボタン（24ページ）

再生ズームボタン（15ページ）

I▶スローボタン（7ページ）

X2 倍速再生ボタン（7ページ）

＞ II▶コマ送り（+）ボタン（7ページ）

▷再生ボタン（6ページ）

▶▶早送りボタン（7ページ）

■停止ボタン（6ページ）

◀◀巻戻しボタン（7ページ）

スピーカー

カセット入れ（5ページ）

電源／充電ランプ（6ページ）

リモコン受光部（6ページ）

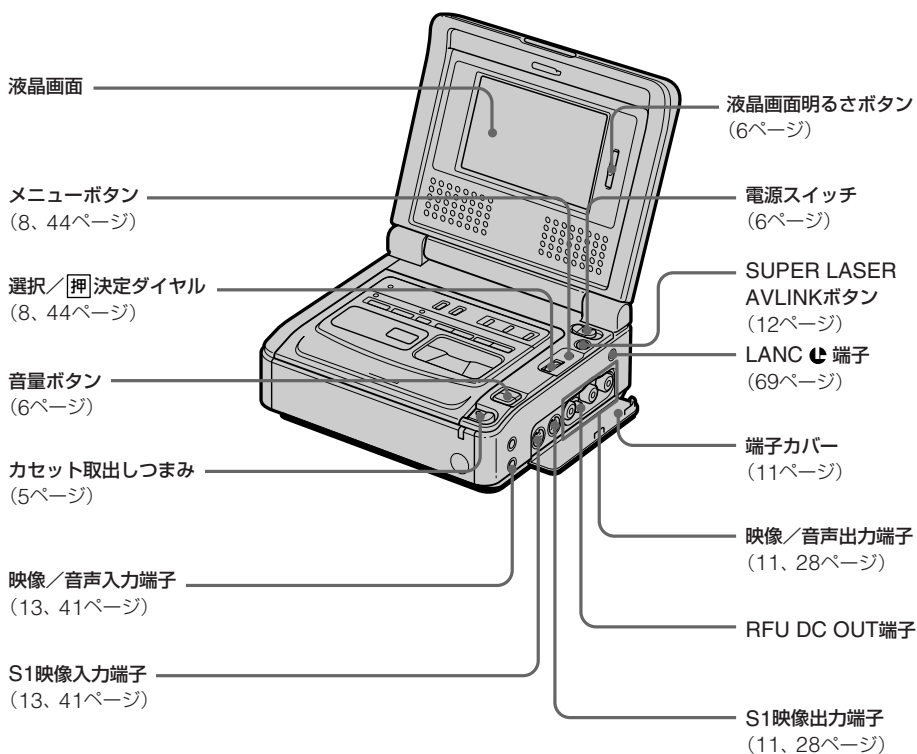
ヘッドホン ∩ 端子（7ページ）
ヘッドホンを使うときはステレオミニプラグのものをお使いください。

警告
画面表示
タイトル
録画
一時停止
スロー　×2
再生
巻戻し
停止
早送り

このマークは、ソニーのビデオ機器関連商品の純正マークです。

ソニーのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはソニーのロゴマークが付いているビデオ機器関連商品をお勧めします。

ヘッドホンを使うと

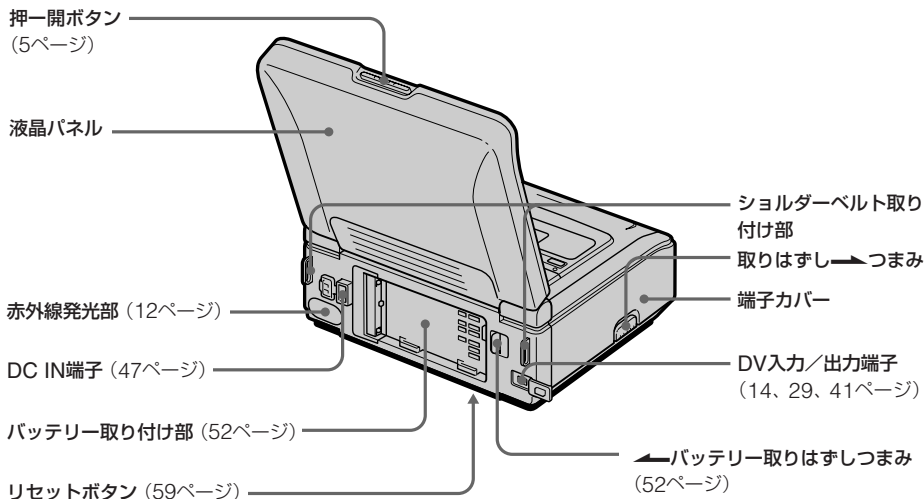
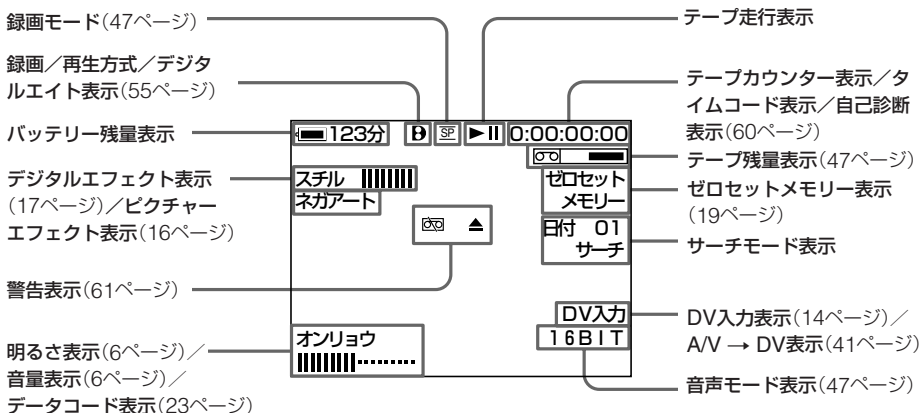
スピーカーから音は出ません。

LANCマークについて

は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

端子カバーの取りはずしかた

- 端子カバーを取りはずすときは、液晶パネルを開いてから取りはずしてください。
- 別売りの専用アクセサリーを本機に取り付けるときは、取りはずし━つまみ（70ページ）を上にずらしながら、端子カバーをはずします。使い終わったら、端子カバーを取り付けてください。

PCの接続

- パソコンで加工したり編集した画像をi.LINKケーブルを使って本機で録画するときは新しいHi8Hi8/Digital8テープをお使いください。
- Hi8スタンダード8ミリ（アナログ）方式で記録した画像をパソコンに取り込むときは、一度Digital8方式またはDV方式のビデオへダビングし、その画像をパソコンに取り込んでください（41ページ）。

液晶画面の表示

タイムコードについて
タイムコードは、テープの位置の指定を容易にするために、テープ上に記録される位置情報信号です。本機では、録画時にタイムコードが自動的に記録されます。タイムコードを確認するには、画面表示ボタンを押すと、液晶画面やテレビ画面に、時：分：秒：フレームで表示されます。タイムコードは、テープの先頭を0:00:00:00として、順に記録されます。ただし、テープの途中で空き（無記録部分）を作ると、その直後から0:00:00:00として記録されます。このタイムコードは後から書き直すことはできません。

また、本機のタイムコードはドロップフレーム方式です。誤差修正のために数フレームとばして表示することがあります。

索引

検索する

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ テクニカルインフォメーションセンター

ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、
および修理受付の窓口です。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。
修理に関するご案内をさせていただきます。

●ナビダイヤル 0570-00-0066
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
● 携帯電話・PHSでのご利用は 0466-38-0253
（ナビダイヤルが使用できない場合はこちらをご利用ください）
受付時間: 月〜金曜日　午前9時〜午後8時
　　　　　土、日曜日、祝日　午前9時〜午後5時
お電話される前にあらかじめ以下の内容をご用意いただきますとより迅速な対応が可能になります。
本機の型名（GV-D800）および製造番号
（保証書などに記載されています）

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan